

公表 事業所における自己評価総括表（放デイ）

○事業所名	こども発達・子育て支援センター わくわくかん		
○保護者評価実施期間	令和7年12月1日		～ 令和7年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数) 44
○従業者評価実施期間	令和8年1月31日		～ 令和8年2月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの活動等のスペースを十分に確保し、季節ごとの行事等様々な活動や遊びを提供している	室内には広いホールがあり、雨の日でも思いきり走り回って遊べたり、トランポリンやスイングホース等感覚統合や体幹・身体能力を高める遊具を設置している。また、園庭や芝生では野球やサッカー、カートに乗る等の遊びもできる。	思いきり身体を動かして心身のリフレッシュをするだけでなく、季節に応じた行事活動も大切にしながら、子どもの興味や関心の幅を広げたり、好きなことや得意なことに繋がられるよう活動内容を工夫していく。
2	配置基準よりも多くの職員を配置し、利用児に寄り添った、丁寧な支援を心掛けている	保育士や児童指導員を基準以上に配置し、子ども一人一人に寄り添い、より丁寧な支援を心がけている。また、日々子ども達との関わりや発達支援の振り返りや課題についての話し合いを密に行っている。	今後も子ども1人1人の特性に配慮し、発達段階に応じたきめ細やかな手厚い支援ができるよう、また、五蘊分析シートを用いて支援の振り返りや検討を個々やチームで行えるよう努める。
3	保護者同士の連携ができる場を設けている	保護者同士が情報交換や相談ができるよう公認心理士がファシリテーターとして定期的に時間を設けていたり、茶話会を開催して繋がりが持てる場を提供している。	茶話会や見学会や子どもたちのこれからをイメージした勉強会も含め、行事等積極的に保護者さんかできたり、交流が持てる場を設定するなどし、保護者への周知に努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用希望をたくさんいただいているが、1日10名という定員の都合上、全てのニーズにお応えすることが難しい状況にある	週1回利用が多いため、登録利用児がかなり多く、年数が経つに連れて利用枠がなく、来年度の受け入れを中止した。地域移行の目指した対応が十分ではないことも要因の1つと考えている。	育成や児童クラブ等とも連携し、地域移行を意識した取り組みや関わりを進めていく。ニーズの対応に向けて、活動の在り方の検討をしていく。保護者との情報共有をより丁寧に行い、目標を持って一緒に取り組んでいく。
2	各種マニュアルや訓練等の周知の不足	事故防止や緊急時対応、防犯や感染症対応等各種マニュアルを策定して、契約時や保護者会等で説明させていただいているが、周知しきれてない面や避難訓練等の周知が足りないとのご指摘もあった。	保護者会や行事の際にする場を設ける、ICTを活用する等、周知するよう努めていく。また、避難訓練や災害時を想定した訓練等の周知ができるようお便りなどにも掲載していく。